

議会報告会報告書

開催日時	平成31年4月16日(火)午後7時00分～8時40分	
開催場所	茅広江地区市民センター	
出席議員	濱口 高志、橘 大介、赤塚 かおり、栗谷 建一郎 沖 和哉、坂口 秀夫、久松 倫生	
	司会進行者	久松 倫生
	報告者	赤塚 かおり
	記録者	栗谷 建一郎
参加人数	34名	
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。	

松阪市議会議長 中島清晴様

平成31年4月23日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

議会報告会第4班

代表者 濱口 高志

【第1部の主な質疑応答・意見等】

問 人権4事業における事業費の500万円の使途不明金について、市には返還されたのか。

答 使途不明金ではなく、事業費として支払われたうえで、過去の4事業は廃止・終結された。ただ、その後、相手方から市に対して1,300万円もらえるはずだとして訴訟が起こされた状況もあったが、市の対応に問題はないと退けられた。市長も今後このようなことはないとしている。

問 障がい者福祉施設で勤務している。他市では社協や市から利用者に対して福祉サービス等の事業者の紹介などがあるのに、松阪市では全くないと思う。声を出しにくい方々への支援を拡充してほしい。

答 基本的にマーベルさんが中に入ってもらって障がい福祉課と一緒にやっていると思っていた。この間、移転などもあったので、改めてサービスを受けてもらえるように対応する。

問 農業について、個別所得補償もなくなり、農業者への支援は薄くなったと思う。農地環境や大規模事業者等への担い手育成などの支援は深まっているが、家族経営者や小規模な農業経営、地域農業者への支援をもっと手厚くする必要があるのではないか。高齢化、価格低迷、機械の更新ができず農業をやめていく人もいる。小農経営では機械更新の補助もないのか。

答 機械の活用・更新も重要な課題であろうと考える。大規模営農者さんへの支援に偏ってきている可能性もいめない。

【第2部 住みよいまちづくりについての質疑・応答】

問 獣害対策が重要な課題。イノシシや鹿はもちろん、特にサル。もう少し力をいれて頂きたい。

答 市もなんとか取り組んでいるが、これから下へ降りてくるので議会としてもさらなる獣害対策を拡充・研究していきたい。

意見 サル追い用の花火5連発2回しかない。もっと予算をつけて欲しい。

問 コミュニティ交通を観光客に使っていけないのか。会津若松市などは観光客向けに、一日乗り放題券といった取り組みをしている。もっと観光客向けにPRすべきではないか。また市のホームページは非常に検索しにくい。市の職員目線であったり、転入してきたすぐの人向けのようである。もっと利用者目線にたったサイト作りを検討してほしい。

答 もっともな意見だとおもう。議会としても提言していきたい。

問 地域で太陽光発電の事業者が増えてきており、農地が虫食い状態である。また、事業者の把握が難しいため、他市では課税逃れのような案件もあったと聞く。松阪市の問題意識はどうか。

答 非常に重要な問題だと認識している。ただ太陽光発電は自然エネルギーで否定するものではない。乱開発によるメガソーラーなどは問題がある。他市では報告義務などの条例を作ったりしている。市は可能なかぎり行政指導をやっている。

意見 大規模なものだけでなく、投資目的の中小規模の太陽光発電も非常に多い。行政の指導・監督がほとんどないため、地域住民や土地権者、業者利用希望者など多様な人から相談を受けるが地元ばかりが苦勞するのではなく、行政も指導力を発揮してほしい。また、地域として覚書を業者と結んだりもしたこともある。市も議会もこの案件についてもう少し勉強してほしい。

問 合併特例債の発行を増やし、その返済に基金をあてたという説明であったが、現在、市の市債残高はどれだけか。借金時計を設置した頃より増えたのか。

答 市債残高は478億円。借金時計設置当時は5百数十億円ほどだった。直近の合併特例債は粥見小学校の改築や鎌田中学校の改築、北部学校給食センター、小中学校の空調整備に使った。約100億円あった財政調整基金から今回は50億円取り崩して返す。議会としては評価している。

意見 人口減少対策として、結婚相談所のような取り組みをもっと広げてほしい。また企業の本社機能を移転してもらうなど、新たな取り組みを進めてほしい。

意見 議会報告会の開催に関して中学校区単位での開催という表現は、残念である。射和小学校は多気中学校である。たとえば、〇〇公民館単位とか、〇〇ブロックとか検討してほしい。

意見 この地区の県道の下方で、雨が続いたり台風が来たりすると、すぐに水がつく。改善に向けて状況を把握していただきたいし、また一度現場を見に来ていただきたい。

答 事業要望自体は直接お受けできず、申し訳ないがご容赦いただきたい。現場の状況については、また担当部局とも連携したい。